

「三重県 心のノート」活用事例

校種	中学校	学年	3年	内容項目	2－(6)
主題名	災害への備えを考える(家庭科)				
資料名	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土の子どもたち あなたたちは、まちの宝 地震の後の津波 「三重県 心のノート 中学生」(三重県教育委員会) ・2011年9月 熊野地域を襲った台風12号災害記録(熊野新聞社) ・防災教育用プレゼンテーション教材(三重県教育委員会) 				
ねらい	安全な住まい方を考えたり、非常時の備えとして必要なものをあげたりすることができる。				
展開	学習活動と主な発問			指導上の要点	
	<ol style="list-style-type: none"> 1 身近で起こった水害の被害状況や体験談を見聞きし、自然災害についてイメージを膨らめます。 2 「地震の後の津波」の文章を読み合い、津波が来たときの行動を知る。 3 DVDを見て津波の威力を知る。 4 実際に自宅で地震に遭ったとき、どのような行動をとればいいのか考える。 (発問)「自宅にいるときに地震が起きたら、あなたはどうしますか?」 5 家庭での地震の安全対策を考える。 (発問)「あなたの家ではどのような地震対策をしていますか?」 (発問)「非常袋には何を入れておきますか?」 ○グループで意見を出し合う。 6 自宅では実際にどのように備えをしているか、またこれからどんな対策が必要であるか、具体的に考える。 ◎交流する 7 授業後の感想を書く。 			<ul style="list-style-type: none"> ・近隣で起こった2つの災害を知ること で、自然災害が自分の身にも降りかかるものだという事に気づかせる。(1と2) ・津波の心配がほとんどない地域に住んでいる生徒たちに、沿岸部にいるときに地震が起きることの可能性も気づかせる。 ・クイズ形式で出題し、興味を持って考えさせる。 ・事前に行った地震体験車での体験を思い出させる。 ・家で地震対策がなされず、3つの安全対策を思いつかないときには、以前に行った、家具転倒防止講習や防災学習会を手掛かりに思い出させる。 <p>ワークシートを配布</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非常袋を準備しておくことは、地震だけにとどまらず、その他の自然災害にも役立つことに気づかせる。 (被災時に準備していて役に立ったものをいくつか挙げる。) ・防災対策の現状と課題をそれぞれ交流することで、全員でいつかはやってくる地震等の災害に備える気持ちを高める。 ・まずは自分ができることを少しでもやっ ていこうとする気持ちをもたせるよ うにする。 	

他の教育活動との関連	
成果と課題	<p>《授業後の感想》</p> <ul style="list-style-type: none">この授業を受けて自分がどれだけ、地震への用意をしていないか分かりました。家に帰ったらちょっとずつ用意をしようと思いました。津波の動画を見ていたら、波にすべて飲みこまれぞっとしました。スーパーセンターに行ったら、海が近いので流されると思うところわいです。高いところに逃げたいです。先生の写真を見せてもらったとき、テレビで見たときよりか、なんかすごい共感できました。今までに、災害にあつて避難所で過ごすなど、ぼくは経験したことがないので、いざ地震がきた時に自分がそのできごとに対して、どう対処できるか心配になりました。そのためいろいろ備えておくことが大事だと思いますが、ぼくの家では服とかしかまとめられていないので、もっと他のものもまとめておくことが必要だと思いました。今回授業をやつて、動画を見てやっぱり津波は怖いし、水の流れる速度が速いのもよく分かりました。非常袋も自分用に用意していないので、自分用も用意しようと思います。いつも家にいるわけではないことを考えると安心ばかりしてはダメだと思いました。地震についてしっかりと家族と話し合うこともしなければいけないと思いました。改めて災害に備えるもの一覧を見て、準備していないものばかりでした。津波がすごい事はわかっていましたが、映像を見ると思った以上のすごさで本当におどろきました。尾呂志は津波は来ませんが、それ以外の山津波などにも気をつけ、非常袋なども用意しておきたいです。スーパーセンターなど海の近い場所にいたときは、とりあえず高い場所に移動するか、従業員の指示に従つて身の安全を守ろうかなと思います。